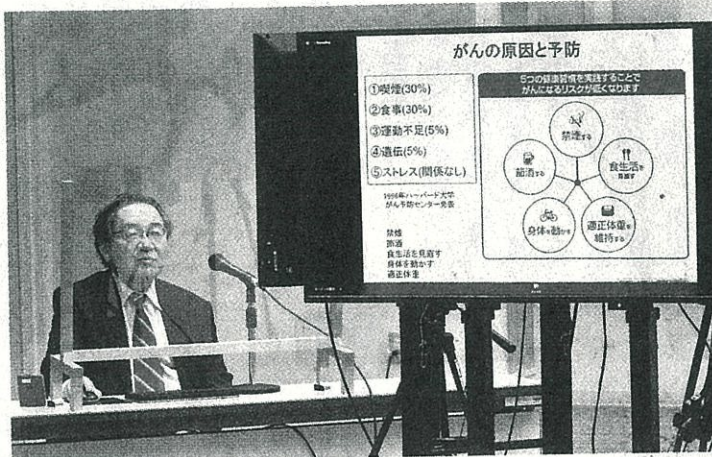




すこやか

光線医療・がん予防学ぶ



光線医療をテーマにした公開講座。オンライン配信された(高知市九反田の市文化プラザ「かるぼーと」)

オンライン市民講座 高知大医師ら講演

特別な光を使ってがんを診断、治療する「光線医療」をテーマにした市民公開講座

がこのほど、オンラインで開かれた。高知大医学部や国立がん研究センターの医師らが講演。膀胱がんや肺がんなどの最新治療を紹介しつつ、がんを予防する生活習慣や検診の大切さを訴えた。

講座は、民間製薬会社や日本レーザー医学会、高知大医学部光線医療センターなどの共催。同センターは光線医療の技術をメインに扱う日本初の組織で、2017年に設置された。

同センター長を務める井上啓史教授は、「5

「アミノレブリン酸」と呼ばれる天然アミノ酸を患者に飲んでもらい、内視鏡で青色の光を当てて膀胱がんの部位を赤く光らせる手術について説明。「若い医師でも熟練者と同じようにがんを取り残さずに手術できる。脳腫瘍などでも同じ取り組みが進んでいる」と話した。

日本医科大学大学院の白田実男教授は、肺がん死亡者の約6割は75歳以上で、発見時にはかなり進行している人が多いとし、予防には「とにかく禁煙を」と強調。早期発見のため、職場や市町村のがん検診を必ず受けるよう報告した。

国立がん研究センター中央病院の脳脊髄腫瘍科長、成田善孝医師は、禁煙▽食生活の見直し▽節酒▽運動▽適正体重の維持―という五つの健康習慣でがんのリスクが下がると助言。ネットで各種がんの情報を集める際には、同センターの「がん情報サービス」が公開している冊子を参考にしたいとした。

(山本 仁)